

自動車リサイクル法に基づく再資源化等の実施状況について

自動車リサイクル法（使用済自動車の再資源化等に関する法律）に基づき、当社が、2019 年度（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）に実施した再資源化等の状況を公表致します。

引き続き、使用済自動車の再資源化等の確実かつ効率的な実施のために、一層の取り組みを推進して参ります。

1. 再資源化（リサイクル）の実施状況並びに基準の遵守状況

■シュレッダーダスト※1

(1) 再資源化（リサイクル）の実施状況

①引き取ったシュレッダーダストの総重量	4,752.1 t
②基準適合施設※2に投入されたシュレッダーダストの総重量	4701.2 t
③基準適合施設において生じた廃棄物のうち当該基準適合施設に投入されたシュレッダーダストに係るものの総重量	93.8 t
④法第31条第1項の認定を受けてその全部再資源化※3の実施を委託した全部利用者に引渡した解体自動車からのシュレッダーダストの総重量	81.9 t
⑤④のうち発生が抑制されたシュレッダーダストの総重量	81.9 t
⑥法第31条第1項の認定を受けてその全部再資源化の実施を委託した解体自動車を引き渡された解体自動車全部利用者の施設において生じた廃棄物のうち当該解体自動車に係るものの総重量	1.3 t
⑦引き取ったシュレッダーダストに係る使用済自動車の台数	17,533 台
⑧④に係る解体自動車の台数	313 台
合計 (⑦+⑧)	17,846 台
シュレッダーダストを投入した施設が基準適合施設であることを証する事項	指定引取場所 基準適合施設

(2) 基準の遵守状況

シュレッダーダスト再資源化率	97.0 %
(基準値)	2015 年度～ 70.0 %以上

シュレッダーダスト再資源化率は、以下の式に基づき算出しています。

$$\text{シュレッダーダスト再資源化率} = \frac{(\text{②} - \text{③}) + (\text{⑤} - \text{⑥})}{\text{①} + \text{④}}$$

※1 シュレッダーダスト：

破砕業者が、廃車ガラ（解体工程で有用部品や廃油廃液等が回収され、外枠だけの状態になった車体）をシュレッダーマシンで細かく砕き、金属を回収した後に残ったもの

※2 基準適合施設：

法に定める基準に適合した高水準のリサイクルが行える施設。基準適合施設に投入されたシュレッダーダストのリサイクル量のみを再資源化率（リサイクル率）の算定の対象とすることができる

※3 法第31条第1項の認定に基づく全部再資源化：

解体業者や電炉・転炉等の事業者と協力をして、シュレッダーダストを生じさせずに使用済自動車を処理することにつき、主務大臣の認定をうけたもの

[全部再資源化の仕組み](#)

当社では、他社と連携し自動車破碎残さリサイクル促進チーム（ART）を結成し、シュレッダーダストのリサイクルを実施しています。

ARTとしての実績については、ART ホームページを参照下さい。

[ART ホームページ](#)

■エアバッグ類

(1) 再資源化（リサイクル）の実施状況

①引き取ったエアバッグ類の総重量	29,474.7 kg
②引き取ったエアバッグ類の個数	135,142 個
③②のうち、解体業者において取外し回収処理されたエアバッグ類の個数	45,105 個
④②のうち、解体業者において車上作動処理 ^{※1} されたエアバッグ類の個数	90,037 個
⑤引き取ったエアバッグ類に係る使用済自動車の台数	15,110 台
⑥⑤のうち、解体業者において取外し回収処理された使用済自動車の台数	5,465 台
⑦⑤のうち、解体業者において車上作動処理された使用済自動車の台数	8,902 台
⑧⑤のうち、解体業者において未作動エアバッグ類の一部を取外し回収し、残りを車上作動処理した使用済自動車の台数 ^{※2}	743 台
⑨引き取ったエアバッグ類のうちその全部又は一部を原材料又は部品その他製品の一部として利用することができる状態にしたものの総重量	27,915.1 kg

(2) 基準の遵守状況

エアバッグ類再資源化率	94.7%
(基準値)	85 %以上

エアバッグ類再資源化率は、以下の式に基づき算出しています。

$$\text{エアバッグ類再資源化率} = \frac{\text{⑨}}{\text{①}}$$

※1 車上作動処理：

エアバッグ類について、車上に搭載したまま作動させて処理する方法。エアバッグ類のリサイクルには、取り外して回収する方法と車上作動処理をする方法の2つがある

※2 一部回収一部作動処理：

ある車に搭載されているエアバッグ類のうち、一部については取り外して回収し、一部については車上作動処理することによって処理をする方法。エアバッグ類の種類によって車上作動しないものがあるため、このような処理をする車がある

■フロン類

(1) 破壊の実施状況

①引き取ったフロン類の量	4,236.797 kg
②①のうち、引き取ったC F Cの量	14.220 kg
③①のうち、引き取ったH F Cの量	4,222.577 kg
④引き取ったフロン類に係る使用済自動車の台数	16,219 台
⑤④のうち、引き取ったC F Cに係る使用済自動車の台数	77 台
⑥④のうち、引き取ったH F Cに係る使用済自動車の台数	16,142 台

2. 収支の状況

(単位：円)

項目	合計			
		シュレッダーダスト	エアバッグ類	フロン類
払渡しを受けた再資源化等預託金の額 【A】	355,226,879	230,934,922	85,313,603	38,978,354
うち預託金利分	44,748,399	—		
再資源化等に要した費用 【B】	303,309,837	196,969,951	77,075,349	29,264,537
うち社内費用（人件費）	13,920,544	—		
うち社内費用（システム費）	8,557,139	—		
収支（税引前） 【C】 = 【A】 - 【B】	51,917,042	33,964,971	8,238,254	9,713,817

【参考：再資源化等の運営に要した負担金とリサイクル全体収支】

(単位：円)

自動車リサイクル促進センターの運営関連費用	10,079,770	—
ASR リサイクル関連費用	5,773,482	—
合計 【D】	15,853,252	
リサイクル全体収支 【C】 - 【D】	36,063,790	

以上